

25枚の短冊

「石狩随想」(P3)で、市長も書いていますが、本町の中島さんの蔵から「秩父事件」の会計長井上伝蔵自筆の短冊が発見されました。石狩には20年近く潜伏していたながら、これまで確認された自筆資料は皆無でしたから、大発見です。わたしも、早速、中島さんをお願いして見せていただきました。

伝蔵の短冊は、桐の板に挟まれた束の中にありました。ところが、この束の中には、『尚古集』に掲載されたほかの社員(会員)の短冊も残されていました。

『尚古集』は、石狩町にあった俳句結社「尚古社」が、亡くなった社員の追悼のため、明治35年に刊行した句集です。当時尚古

社は、北海道を代表する俳句結社でした。尚古集を刊行するにあたっては、全国に投句を呼び掛け、その結果、北海道から沖縄までの1538句が収録されました。

今回発見された中には、伝蔵のほか、樺太アイヌ救済組合長で、樺太から強制移住させられたアイヌ民族の保護にあたった上野正や、石狩随一の商店中島呉服店を営み、尚古社主だった鎌田幹六、生振小学校の初代校長で、生振の俳句結社「弥生社」の中心人物だった中島源五郎など、当時の名士、文化人が含まれています。

尚古社の短冊は、伝蔵のものも含め25枚ありました。書かれ

ている句はほとんどが尚古集に収録されたものです。短冊の紙の色や模様はさまざまで、筆跡も違ってきます。おそらく、伝蔵を含め、句を寄せた社員一人一人が思いを込めて句をしたためたものと思われます。

(工藤義衛)

頼母しき 友や揃ふて 霊祭 (たのもしき とよやそろつて たままつり)

西史

「頼母しき 友や揃ふて 霊祭」(たのもしき とよやそろつて たままつり)

西史(上野正)

進悼

とうか
桃下
(中島源五郎)

上野 望みだおつて
ちりょう
池菱
(鎌田幹六)

市制10周年記念特別展示

「104年ぶりに発見された尚古集自筆短冊展」

発見された伝蔵の短冊のほか、句集『尚古集』(明治35年)に収録された社員たちの短冊も併せて展示します。

期間 7月1日(土)～30日(日)

会場 市民図書館

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp



と しょ かん 通 信

石狩市民図書館

石狩市花川北7条1丁目26番地 電話72-2000 73-9120

http://www.ishikari-lib-unet.ocn.ne.jp/ ishakari-lib@mail.ishikari-lib-unet.ocn.ne.jp

●開館時間 火・金10:00～18:00 水・木10:00～20:00 土日祝10:00～17:00
花川北・花川南・八幡・浜益分館10:00～17:00 厚田分館13:00～17:00

7月の休館日

休館(月曜)
3・10・17・24・31日
祝日振替日
18日(火)
図書整理日
28日(金)

司書日記

いずばの探し方

眼鏡はなぜメガネと読むの？

5月のある日曜、子どもカウンターの小学3年生の女の子から、「眼鏡はなぜメガネと読むのか調べたい」という相談を受けました。

考えてみると確かに不思議です。手始めに、子ども用百科事典『ポプラディア』を開いてみると、「日本にはフランススコルザビエルによって初めて伝えられた」とありましたが、名称についてはありませんでした。大人用の百科事典で調べても分かりません。視点を換え、事物起源の事典で眼鏡の始まりを調べようと、別な棚へ移動すると『全図解モノの呼び名がわかる事典』という本を発見！ ようやくそこに、メガネという呼び名が江戸中期に定着したことや、漢語では「眼鏡」と書いていたことが明記されていました。

語源はどこから？

さらに読み進めると、「目がねにかなう」からメガネを選んだとか、メガネの「カネ」は、「兼ねる」からきているなどの説が紹介されていました。やっと出てきた…と言いたいところですが、著者がこれを何によって知ったのか、出典が不明です。

そこで、再び調べものの原点に戻り、国語辞書『暮らしのことば語源辞典』を開くと、1603年発行の『日葡辞書』の「メガネノアルヒト」という項目に「見る物すべてを非常によく記憶する人」と解説があり、このメガネは「眼のさしがね(物差し)」、つまり「ものごとを物差しのように正確に把握する」というのが語源らしいこと、さらにそこから視力を補ってよく見えるようにす



るもの(眼鏡)を指すようになったのではとの推測が書かれていました。『語源辞典 名詞編』にも同じような説明があり、「ヘメ(眼)のサシガネ(尺度)の義か」とする『大言海』の説が妥当である」とありました。

メガネは「目利き」

複数の本で確認した内容を質問者である女の子に伝えて、この件は

終了しましたが、後で『語源辞典』に出てきた『大言海』をチェックしました。この辞典は語源の解説に特徴がある、日本を代表する国語辞書です。当館で所蔵している1937年に出版されたもので確認したところ、「ヘメノ尺度サシガネ」ノ意ト云フ、物ノ形状、性質ナドヲ見テ、ソノ善悪、可否ヲ考ヘ定ムルコト。ミワケ。メキキ」とあり、用例として井原西鶴の作品中から一例を掲載していました。

もともとは「見分け」「目利き」などの意味で使われていたメガネという言葉。それがやがて眼鏡という漢字に当てられ、今では視力調整器具の名前として使われているのです。

(清水千晴)

この夏おすすすめ!! 本のテーマ特集

●本館

7月9日(日)まで

「夏の夜空」

7月11日(火)～23日

「これで万全! 夏バテ知らず」

●分館 7月4日(火)～26日(水)

花川北分館 「せなけいこの世界」

花川南分館

「みんなでアウトドアにチャレンジ!」

八幡分館 「手作りの自分ブランド

〜ゆとりハンドメイド生活



第1回 選書に関する 利用者懇話会

テーマ 「児童書」

日時 7月9日(日)
13:00～15:00

会場 視聴覚ホール

申込 不要。直接お越しください

第1回図書館講座

「親子でかわいい豆本作り」

家庭にある身近な材料を使って、自分だけの豆本作りを体験してみませんか？
費用無料。

対象 小学3～6年生の親子
日時 8月2日(水)10:00～12:00

定員 12組(申込多数時抽選)

講師 樋口博氏

申込締切 7月14日(金)18:00

申込方法 電話または図書館カウンターにて



個人情報の今後の取り扱いについて

図書館では、「図書館における貸出者の登録管理」のために、利用登録の際、皆様の個人情報をいただきますが、5月26日に開催された「石狩市情報公開・個人情報保護審査会」の答申を受け、その個人情報を皆さまへのサービス向上と利用者ニーズの的確な把握を目的に「アンケートによる意向調査」と「図書館情報の提供」に利用させていただくことになりました。皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

※図書館の行事は情報ひろば(22ページ)へ移りました。